

# 北東アジアにおける港湾の技術基準 に関する共同研究



港湾研究部 港湾施設研究室 研究官 森屋 陽一

## 1. 背景

WTOの加盟国には、国際的な基準策定のための組織であるISO（国際標準化機構）などが作成した国際基準が存在する場合には、その使用が求められると共に、国内基準の基礎としても国際基準を尊重しなくてはならないことになっている。一方、EUにおける基準作成のための組織であるCEN（欧州標準化委員会）は、現在、土木や建築の構造設計のための技術基準である'Structural Eurocodes'を作成中である。CENとISOの間では、重複作業を避けるための協定（ウィーン協定）が結ばれており、'Structural Eurocodes'はそのまま国際基準の原案になる可能性がある。

このため、国総研港湾研究部では、港湾構造物の設計に影響がある分野に関しては、ISOの基準やEurocodesの調査を行っている。

このような背景を踏まえ、北東アジア港湾局長会議において、北東アジア港湾局長会議のワーキンググループの一つとして、中国、韓国、日本の中で「北東アジアにおける港湾の技術基準」に関する共同研究を行うことが合意され、2001年3月に第1回目が開催された。共同研究に参加しているのは以下の機関である。

中国：中交水伝規則設計院

韓国：韓国海洋研究院

日本：国総研、沿岸開発技術研究センター

また、共同研究の目的は、以下の3点である。

- 各国の港湾の技術基準の法的な位置付けおよび内容の相互理解
- 国際的な基準との比較検討
- 北東アジアにおける共通の港湾の技術基準の策定に関する検討

## 2. 共同研究会の活動

共同研究会は2002年3月12日～16日に東京で第3回目が開催され、議長は沿岸開発技術研究センター（現東海大学教授）の鶴谷氏が務めた。次いで、7月14日～18日には沖縄で第4回目が開催され、議長は国総研の山本港湾研究部長が務めた。3月の研究会では（独）港湾空港技術研究所から3人の参加者もあり12人が参加し、8つの技術レポートが報告された。7月の研究会では、初日に台風が来襲し、飛行機の欠航や日程のズレによる会場の変更などのハプニングに見舞われたが、関係者の努力により無事に開催され、5人が参加し、3つの技術レポートが報告された。写真-1は沖縄で開催された共同研究会および同時に開催された北東アジア港湾局長会議実務者会合の参加者の集合写真である。

2002年の共同研究会において議論された主要なテーマを以下に示す。

- ・各国の基準とEurocodesによる港湾構造物の比較設計
- ・海成粘土に関する研究
- ・コンクリートの耐久性に関する研究
- ・港湾構造物の耐震性能設計に関する研究
- ・埋立護岸の耐震性能に関する現地実験の報告
- ・護岸の天端高の信頼性設計
- ・港湾構造物の信頼性設計の適用に関する研究



写真 - 1 会議参加者の集合写真（沖縄にて）